

高齢者が安心して暮らせる

地域を作るために

～認知症・高齢者虐待について考えよう～



だれでも最期まで自分らしく尊厳を持って暮らしていきたいと願っています。
この講座では、高齢社会とは切っても切れない認知症問題と実は身近な高齢者虐待について学び、だれもが安心して暮らせる地域をめざせるようにします

●第一部 “ここから歩き始める” 上映

認知症の親を持つ主人公とその家族の中で繰り広げられる介護をめぐる葛藤と絆の紡ぎなおしを描きます。高齢者が人間として誇りを持って生きていく上で大切なことについて、家族や地域の視点を通して考えるきっかけを学べる作品です。



●第二部 立川市の現状報告

立川市や東京都の虐待について、どのような虐待通報が入っているのかをご紹介します。

日時：H30年10月17日（水）14時～15時30分

会場：西砂学習館 第一教室（立川市西砂町6-12-10 地図裏面）

定員：30名 対象：どなたでも

費用：無料

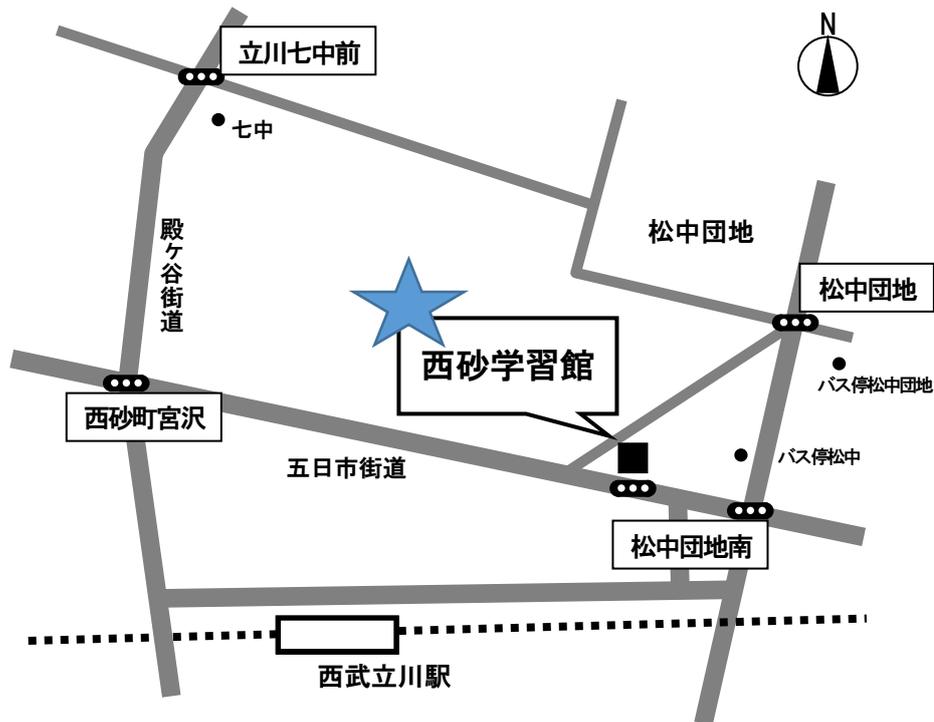


申込み先・問合せ：北部西かみすな地域包括支援センター

電話：042-536-9910 FAX：042-536-9953

（申込み期限：10月16日午前中まで ※定員を上回り次第、受付終了）

●会場地図（立川市西砂町 6-12-10）



●上映作品紹介『ここから歩き始める』



商事会社の課長・岩崎信介のもとに、姉・早苗から「父が倒れた」という電話が入る。一人暮らしをしている父・功一が、熱中症で倒れ病院に運ばれたのだ。病院で、功一は認知症と診断される。

早苗も嫁ぎ先での介護があり、信介が功一を自宅に引き取る。信介の妻・恵子は急なことで戸惑う。功一は、家族の名前を間違えたり、ガスコンロを消し忘れていたりするなど、認知症の症状が出ている。功一は寿司職人だったこともあり、恵子の作る食事にも気に入らない。功一の孫・蓮だけが功一をかばう。



ある日、功一がいなくなる。信介、恵子、蓮と早苗で功一を探す。地域の認知症サポーター・花房美紀の協力も得て、功一は花屋で発見される。功一は、亡くなった妻の月命日の墓参りのために花が欲しかったのだった。

信介たちは、功一をつれて墓参りに出かける。そのあと、家族みんなで近くの砂浜まで下りる。信介は、中学生の頃、功一に寿司屋を継がなくていいと言われたことが心のわだかまりになっていた。功一が砂で寿司を握り始める。その様子を見ているうちに、信介の心はほどけていくのだった。

